

1 主題名 受け継がれる生命 3-(1) 生命尊重

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目3-(1)は、「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること」をねらいとしている。生命は自分一人だけのものではなく、連綿と受け継がれてきたものであることや、自然の中で支え、はぐくまれてきたものであることに具体的に気付かせ、かけがえのない生命の価値の重みを十分に感得させるようにしたいと考える。

この時期の児童は、現実性をもって死を理解できるといわれている。家族の病気や死、飼っている動物の死などを通して、生命の大切さを感じ取れるようになってきている。そこで、児童にとって身近な「食」を通して、他の生命の支えなしには生きられない事実や、受け継がれる生命のたくましさを感じさせ、生命あるものを大切にしようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について

児童はこれまでに、理科の学習で育てているツルレイシや採集した昆虫などの世話を通して生命の尊さを感じ、どんな生命でも大切にしようとする気持ちが高まってきている。また、けがをした友だちを助けたり、欠席した友だちへ手紙を書いたりするなど、友だちへの気遣いが進んでできるようになってきている。しかし、おもしろさ・スリル感から危険な遊びをしたり、言い争いがもとで乱暴な言動を友だちに与えてしまったりすることがある。

[アンケートの結果] (男子22人, 女子14人, 計36人 平成22年10月2日実施)

① あなたは身のまわりの植物や動物を大切にしていますか。	
・大切にしている	23人
・どちらかといえば大切にしている	11人
・あまり大切にしていない	2人
② あなたは「生きていく」ために大切なことは何だと思いますか。(複数回答)	
・命を大切にする	9人
・食べる	9人
・仲よく協力する	8人
・安全に生活する	7人
・家族を大切に	6人
・人に優しく	5人

事前アンケートの結果から、多くの児童が身のまわりの動植物を大切にしていることが分かった。また、自分自身のことばかりでなく、他者とのかかわりについても目を向けていることも分かった。そこで本学習では、様々なつながりの中で生きている自分を自覚させ、自他の生命を大切にしていこうと生きたいと考える。

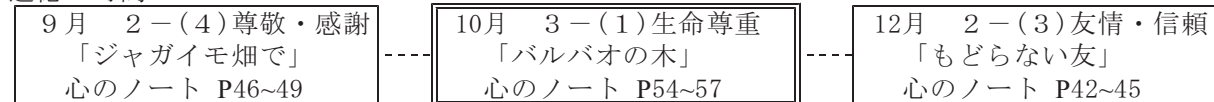
(3) 資料について (資料名「バルバオの木」東京書籍)

樹齢何十万年のバルバオという大木が、飢えに苦しむ鳥やシカ、ゾウたちに実や葉、最後は自身の幹を投げ出し、動物たちの生命を救う。敬けんにも通じる感動的な話である。

他の生命を救うために、自分の身を与えるバルバオの木や、バルバオの木を食べることでその生命をも受け継いだというゾウたちの心情を考えさせ、生命は受け継がれるものであることに気付かせるようにする。また、自分の生命は先祖や両親から受け継いだ大切なものであること、まわりの様々な支えのおかげで生きていることを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てていきたいと考える。

3 関連

道徳の時間



各教科等

理科	生き物を調べよう
国語	一つの花
体育	育ちゆく体

特別活動

9月	のびる体
10月	友だちと仲よくしよう

家庭地域

10月	3世代レク
10月	親子学習会

4 本時の指導

(1) ねらい

動物たちに自分の体を提供するバルバオの木の気持ちをとらえる活動を通して、受け継がれる生命のたくましさに気づき、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備・資料

- ・木の写真
- ・場面絵
- ・ワークシート
- ・BGM用CD

## (3) 展開

(◎ねらいに迫るために)

	主な活動	予想される児童の反応	支援の手立て
であうと	1 バルバオの木について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても大きい木だな。</li> <li>・上の方にしか枝がなくて変わっているな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身のまわりにある木を想起させ、木に関心もてるようにする。</li> <li>・モデルとなった木の絵や写真を見せ、特徴について簡単に説明し、資料について考えやすくする。</li> </ul>
らえ	① バルバオの木の实や葉を食べながら、鳥やシカたちはどんなことを思ったでしょう。		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・助かったな。</li> <li>・嬉しい、やっと食べられる。</li> <li>・バルバオの木は優しいんだな。</li> <li>・ありがとう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読んだ児童の感想の言葉から発問につなげるようにする。</li> <li>・バルバオの木の实や葉を食べながら、やっと生き延びることができた鳥やシカたちの喜びに共感できるようにする。また、場面絵を用いて、鳥たちが去ったあとの地面にバルバオの種が残っていたことをおさえる。</li> </ul>
	② バルバオの木がゾウたちに「わたしのみきを食べなさい」と言ったのは、どんな気持ちからでしょう。		
る		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の身はどうなってもいいから、ゾウたちを助けたい。</li> <li>・長い間生きてきたから、ゾウたちに自分の生命をあげよう。</li> <li>・ゾウたちには、自分の分も生き続けてほしい。</li> <li>・食べられることにより、また新しい命を生きることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎「幹がなくなったら、木はどうなってしまうのか」という補助発問をし、自分の体を提供することで生命を次世代へつなげていこうとするバルバオの木の心情をとらえやすくする。</li> <li>・ハンドサインを見ながら、相互指名でお互いの考えを聞き合い、自分とは異なる考えも大切にしようとする態度をはぐくんでいく。</li> </ul>
みつめる	③ バルバオの木の幹や枝を食べながら、ゾウたちはどんなことを思ったのでしょうか。		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べ物もらえて嬉しい。</li> <li>・ありがとう。</li> <li>・これで生き延びられる。</li> <li>・バルバオの木の分までがんばって生きるぞ。</li> <li>・バルバオの木からもらった生命を大切にしよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎感謝の気持ちとともに、食べることを通してバルバオの木の生命をも受け継いだというゾウたちの心情に迫れるようにする。</li> <li>・残っていた種から小さな芽が出てきたことをおさえ、バルバオの木の生命は、他の動物だけでなくその子孫にも受け継がれていたことに気付けるようにする。</li> <li>・BGMを流し、落ち着いた雰囲気の中で、自分の生活を振り返ることができるようにする。</li> <li>(評)受け継がれる生命のたくましさに気づき、生命あるものを大切にしようとする心情が高まったか。(観察・ワークシート)</li> </ul>
広げる	3 今までの生活の中で、生命は受け継がれている、支えられていると思ったことを考える。 ・ワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さん、お母さんから生命を受け継いでいる。</li> <li>・人間はいろいろな野菜や肉などを食べているから、他の生き物に支えられて生きている。</li> </ul>	
	4 GTの話聞く。 ・安西住職(常陸太田市菊蓮寺)の話聞く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生命は、他の生き物や両親、先祖から受け継いだ大切なものであり、またその生命も受け継がれていくものであることに気付かせ余韻をもって終わりにする。</li> </ul>

## 5 事後の指導

バルバオの木のモデルとなった木の映像を見せ、心のノート P54~57を活用したり、GTへお礼の手紙を書いたりして、生命を大切にしようとする心情をさらに高めていく。